

—総括表—		
◆ 事業計画		
☐ 地域の現状と今後の方向性		
1 地域の現状 (1) 高齢化率が30%を超えているが要介護認定率は低く、元気な高齢者が多い (2) 集合住宅では高齢者の単身世帯率が27%と区平均に比べ、非常に高い (3) 地域活動者の高齢化に伴い、世代交代が進んでいる (4) 介護事業所数が区内で最も多く、医療機関も多い。連携に協力的な医療機関が多い (5) 障がい者支援の施設、学校が多く、障がいのある転入者も増えているが現状として支援者が不足している (6) 外国にゆかりのある世帯が増えているようだが、ケアプラザとして実態把握まではできていない。 2 今後の方向性 (1) 地域や区、関係機関・事業者等との連携を強化し、福祉保健課題の解決に向けて地域福祉保健計画を推進していきます。 (2) 地域包括ケアシステムの推進に向けて取り組んでいきます。（認知症サポーター養成講座、地域ケア会議、介護予防・生活支援サービスの充実） (3) 互いに支え合う「共助」の取組がさらに厚くなるよう、福祉ネットワークの活動を支援します。 (4) ボランティア活動の新たな担い手確保と育成に向けた支援を進めます。 (5) 高齢になっても、いつまでも健康で生活が続けられるように支援を進めます。 (6) 子どもや子育て中の家庭が、暮らしやすい明るい街づくりに努めます。 (7) 障がい児・者を支えるボランティア育成と、交流を通じた心のバリアフリーに努めます。 (8) 地域防災対策の必要性が高まっています。要援護者の支援するとともに、福祉避難所としての役割を果たしていきます。		
☐ 今年度の重点的な取組		
新規	継続	—具体的な取組内容—
☐	☒	地域や関係機関と連携し、福祉保健課題の解決に向けて第4期地域福祉保健計画の振り返りと同時並行しながら、第5期計画の策定に向けて協議していきます。
☐	☒	築いてきた地域包括ケアシステムを更に発展させ、高齢の方も安心して生活できるよう地域での見守りや権利擁護に関する取組を進めます。
☐	☒	在宅医療と介護の連携の推進した取組として、病院とケアマネジャーとともに研修会の企画・開催を進めます。
☐	☒	住民同士のコミュニティの場となっている移動販売を活用し、住民の孤立解消に向けた取り組みを考案します。
☐	☒	特別支援学校や障がい児者施設等も多い地域のため、誰もが参加しやすい街づくりを進めていきます。
☐	☒	港南台福祉ネットワーク事業における、助け合い活動と地域交流カフェ【まろにえカフェ】の開催を支援し、住民が地域と繋がるきっかけを作ります。また、ボランティアの新たな担い手の発掘にも積極的に取り組みます。
☒	☐	来年度から始まるチームオレンジの準備段階として今年度はケアプラザで実施している認知症カフェを地域の自治会館等でも試行的に開催し認知症の方が住み慣れた地域での居場所づくりを進めていきます。

◆ 事業報告・事業実績評価

☐ 振り返り

地域住民の福祉保健活動を継続的に支援するため、区役所や区社協、地区社協、民生委員等と連携を図り、協力体制を構築しています。

法人内の横浜市南部病院、南部訪問看護ステーションと協働し、地域のケアマネジャーを対象とした研修会を年2回開催しました。また、次年度のチームオレンジの取り組みとして地域の自治会館で認知症カフェを試行的に開催し課題を抽出しました。

「まろにえカフェ」では地域交流の場として、毎月1回開催しました。地域とつながりのない方同士のふれあいや交流が深まったこと、ボランティア希望者が増えたこと等により、一定の成果が得られました。

若い世代の取り込みとして、ケアプラザの事業において積極的に学生ボランティアを受入れ、活性化を図りました。

今後も地域住民の生活課題ニーズに変化がないか、地域情報を適宜収集し、必要な情報を発信していきます。

☐ 区からのコメント

地域の会合やイベント等へ積極的に参加いただいているほか、見守り協力事業者の新規開拓、企業との協働による事業展開など、さまざまな場面において地域との関係づくりにご尽力いただき、感謝いたします。

時代のニーズに合わせ、これまで検討を進めていただいたSNSを活用した効果的な情報発信や、見守り協力事業者連絡会議のような地域の中の新たな繋がりづくりを検討するなど、今年度の事業評価からさらに良い取組を進めていただくことを期待しています。

在宅医療と介護の連携については、地域の入院病床をもつ病院やクリニックと顔の見える関係づくりができており、日頃から入退院の調整やかかりつけ医のいない方の対応においてスムーズな連携が図れています。また、虐待や複合的な課題をもつ世帯への支援の際、医療の立場からの意見を積極的に聞き取っていただいていると感じます。今後も区との連携も視野に入れて、継続的な情報発信に努めていただくようお願いいたします。

認知症事業では、若年層への認知症サポーター養成講座に取り組まれており、定期開催の周期ができています。また、協力医との連携も図れており、定期的に認知症カフェや介護者のつどいが開催できています。チームオレンジの活動にも繋がっていくことを期待します。